令和８年度学校評価中間

本年度の 重点目標	1　授業、HR 活動、部活動、委員会活動など学校生活のあらゆる場面において、生徒が前面に出る教育活動を行い、生徒が主役の学校づくりを行う。 2　生徒一人一台タブレットを始めとするＩＣＴ機器を効果的に活用しつつ、思考力・判断力・表現力を高める授業を積極的に行いながら「分かる授業」「自律的な学習者の育成」に努める。 3　生徒に責任と義務を自覚させるとともに規範意識を高め、自他の命を重んじ、人権に配慮した生徒指導を行う。生徒・ＰＴＡを交えた校則の見直しが行える仕組みづくりを行い、生徒の心理的安全の確保が出来る学校風土の土台を作る。 4　開かれた学校づくり実現のために、学校 HP や SNS を充実させ、外部団体・地域との関わり深めるなど、校内に留まらない教育活動の活性化と広報活動に取り組む。 5　協働の精神をもって職務にあたりながら教員の働き方改革を進めるとともに、日々の教育活動や学校行事等の意義や効果を確認しながら、実践と改善を行う。

項目（担当）	重点目標	中間評価（ａｂｃ）	備　考
総　務　部	1　ＰＴＡ活動の積極的な参加を図る	1　b	1　体育祭や文化祭には昨年と同程度の保護者の方が参加されている。学校行事の参加をとおして、PTA 活動への参加へ繋げていきたい。
	2　日進西高校安心メールの活用	2　b	2　保護者の方へ直接情報を提供する手段として、積極的に活用できている。
	3　文化祭ＰＴＡ企画の検討	3　b	3　生徒からの満足度が高いキッチンカーの運営も 3 年目になり、運営方法も整ってきている。改善できる点を今後の課題にしたい。
教　務　部	ＩＣＴを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業及び評価を行う。	b	今年度も 10/26(月),27(火),28(水)の公開授業期間に合わせて、各教科の探究的な学習活動推進委員が、ＩＣＴ機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施する予定である。ただ、この取り組みは今年度で最後となる。その理由の一つとして、教科によっては十分にＩＣＴを活用して主体的・対話的な授業ができていることが上げられ、これまでの取り組みの成果が現れている。最後ではあるが、適切なフィードバック等を行い、今後の更なる授業改善に繋げていきたい。
生徒指導部	1　指導の定着	1　b	1　【生徒指導情報】をファイルサーバー内で共有しているため、迅速な対応をすることができたと感じている。問題行動に対する事実確認など、生徒指導部だけでなく該当学年団で対応することができた場面も多くあった。
	2　生徒の安全意識の向上	2　c	2　近隣から交通マナーに対して意見をいただくことが大変多かった。事故の報告件数も昨年度と同様 20 件以上あり、生徒の自転車マナーの意識を高めることができていない。
	3　いじめ未然防止に係る取組の充実、いじめの早期発見、適切な事案対処	3　b	3　１学期と２学期に面談週間を設定しており、生徒が悩みを打ち明けやすい環境を整えることはできている。【いじめ対策委員会】などを開き、迅速に対応できるシステムを構築していきたい。
	4　生徒の主体的・自主的活動を支援	4　b	4　文化祭や体育祭の学校行事において、来年度は生徒がより前面に出る教育活動を行うように今年度より準備をしていきたい。
進路指導部	1　在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力の育成	1　a	1　社会の一員としての自覚を芽生えさせ、自己の在り方生き方について考える方策として、日進市探究プロジェクトを実施中。
	2　勤労観・職業観に基づく進路意識の向上と自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学び続ける姿勢の育成	2　a	2　１日看護等体験研修・私立幼稚園体験などの実習を通じて、勤労観・職業観の育成を図っている。また、進路学習に資する書籍の教室への配本、学習会や模擬試験の実施などにより、生徒の進路意識を高めるよう努めている。
	3　学習習慣を身につけさせ、生徒の基礎学力向上を図り、自己の進路目標を実限していく力の育成	3　b	3　学習成果の成果を学びの基礎診断によって確認し、当該学年や教科に情報提供を行い、さらなる学習につなげられるように努めている。

保　健　部	心身共に健康で明るく日常生活を営むための基本的な資質・能力を養う	b	安全点検を活用して環境整備に努めたが、清掃への取り組みには課題が残る。美化委員による清掃点検実施に向けて準備を進めている。 学校生活調査を実施し、生徒が抱える問題の早期発見に努めている。
メディア・研修部	1　読書への関心と図書室利用の向上	1　a	1　１年生４月の国語の授業で全クラス１時間ずつ図書館に移動してガイダンスをしたことが奏功し、貸し出し状況が好転した。
	2　委員会活動の活性化	2　a	2　委員会活動として３年生を中心に当番を決めて１テーマずつ調べたものの発表や関連図書の紹介をするなど、貸し出しカウンタ業務以外の活動をするようになった。
	3　ＩＣＴ教育の向上	3　b	3　１人１台端末を活用した授業が継続的に行われている。
	4　教員のセキュリティ意識の向上	4　a	4　セキュリティに係るインシデントは発生していない。
	5　教員の基本的スキルの習得	5　b	5　生成ＡＩの利用が進み、個人研究も行われている。
	6　備品管理とシステムの保守	6　b	6　消耗品も含めて、県有物品の取扱いについて意識を高めていく必要がある。
1　　年	1　基本的生活習慣の確立	1　b	1　おおむね安定した生活を送っている。２学期以降、心身のバランスを崩す生徒が増加傾向にあるため、継続的な声掛けを行っていく。
	2　基礎学力の定着、学習環境の整備	2　b	2　学習環境は適切に整備されている。学習習慣の個人差が大きく基礎学力の定着には課題がある。根気強く指導していく必要がある。
	3　自主性、自律性を育てる	3　b	3　何事にも主体的に取り組もうとする生徒が多く、協力的な雰囲気である。学校生活に慣れ規範意識が緩む傾向があるため継続的に声掛けをしていく必要がある。
2　　年	1　基本的な生活習慣を維持させる。	1　c	1　遅刻が増加傾向にあるため、継続的な生活指導を行う。また、精神的な不安による欠席も増加しているため、SC や教育相談担当者と連携しながら個に応じた支援を行い、欠席の改善に努める。
	2　行事等、集団生活を通して共同性を養う	2　b	2　これまでの学校行事においては、他の生徒と協力しながら前向きに取り組む生徒が見られた。今後は、学年全体がより主体的に行事へ参加できるよう支援し、生徒一人ひとりの主体性や協働性の育成を図る。
	3　自主自律自学の精神を育む	3　b	3　学習習慣の定着状況には大きな差が見られる。主体的に学習に取り組む生徒は学力を伸ばしている一方で、自ら学習することが苦手な生徒には学習意欲の低下が見られる。段階的に目標設定を行い、成功体験や達成感を積み重ねさせることで、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。
3　　年	1　基本的生活習慣を維持させる。	1　b	1　多くの生徒は基本的生活習慣が安定している。今後、受験が近づいたときの欠席・遅刻が増加しないよう、学年団で日々の観察や声掛けを大切にしたい。
	2　より高い進路目標の設定と学力伸長を援助する。	2　b	2　それぞれの進路実現に向けて学習に集中する雰囲気はある。家庭と連携を取りつつ、生徒とのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの目標を確認しながら進路指導をすすめていく。
	3　自啓自発の実践	3　b	3　さまざまな場面で自ら考え、行動できる生徒がいる一方でまだまだ受け身の生徒も多い。卒業まで自啓自発を促す声掛けを続けたい。